

科目名 看護過程展開技術	配当時期 1年次後期	講義担当者	
時間割表記名 看護過程展開技術	単位数 1単位	間宮 みどり	
	時間数 30 時間(16 回)	(実務経験のある教員)	
事前学習内容			
1. テキスト「ザ・ロイ適応看護モデル」を読み、アセスメントガイドを作成する。			
2. 事例の運動器の疾患、老年期の特徴について学習を行う。			
3. 1 年次の看護学概論で学習した「看護過程」「看護理論:ロイ適応モデル」について復習する。			
授業目標			
1. 看護過程の基本構造・意義や看護過程の枠組み(ロイ適応看護モデル)を理解できる。			
2. 対象の健康問題を解決するために科学的根拠に基づいた看護過程の展開の方法が理解できる。			
DPとの関連			
DP1. 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的・霊的に統合された生活者として理解することができる。			
DP3. 一人ひとりの多様な価値観や人権を尊重し、倫理観に基づいて看護を実践できる。			
DP4. 保健・医療・福祉システムにおける自らの役割を理解し、多様な場で生活する人々の生活の質の向上のために多職種と連携・協働する意義と方法を理解することができる。			
DP6. 専門職業人としての責任を自覚し、広い視野にたつて物事を考え、自己研鑽することができる。			
授業の流れ			
回	学習内容と成果	方法	備考
1	1. 看護過程とは 1)看護過程の5つの構成要素 2)5つの構成要素の関係 3)看護過程を用いることの利点 2. 看護過程を展開する際に基盤となる考え方 3. 看護過程の各段階 1)アセスメント(情報の収集と分析) 2)看護問題の明確化(看護診断) 3)看護計画 4)実施 5)評価	講義	テキスト①
2 3	4. ロイ適応モデルにおけるメタパラダイム 1)人間、環境、健康、看護とは 2)ロイ適応モデルの基本となる前提 3)メタパラダイムの相互関係 5. ロイ適応モデルの概念構造 1)適応システムとしての人間、対処プロセス 2)適応様式(生理的様式・自己概念様式・役割機能様式・相互依存様式)	講義 演習 (個人、グループワーク) 演習	テキスト①②③
4 5	6. ロイ適応モデルに基づく看護過程 1)ロイ適応モデルに基づく看護過程の構造と機能 2)ロイ適応モデルに基づく看護過程の記録	講義 演習	テキスト①②③④

6 7 8 9 10	7. ロイ適応モデルに基づく事例展開① 【事例】老年期 運動器疾患 1)行動のアセスメント 情報の整理と解釈の仕方	講義 演習(個人、グループワーク) 演習	テキスト①②③④ ⑤⑥ DVD
11	8. ロイ適応モデルに基づく事例展開② 1)関連図	講義 演習(個人、グループワーク) 演習	テキスト①②③④ ⑤⑥
12 13	9. ロイ適応モデルに基づく事例展開③ 1)刺激のアセスメント 2)看護診断	講義 演習(個人、グループワーク) 演習	テキスト①②③④ ⑤⑥
14 15	11. ロイ適応モデルに基づく事例展開④ 1)優先度の設定と目標および介入計画の立案 2)看護の評価	講義 演習(個人、グループワーク) 演習	テキスト①②③④ ⑤⑥ * 15 回目 45 分
16	筆記試験(45 分)	試験(筆記)	
受講上の注意 ○授業内容により適宜課題を課すことがある。 ○必ず個人で学習した上でグループワークに臨む。 ○グループワークや演習を通して自分の意見を発表し、他者の意見を取り入れる中で考えを深めていくことをねらいとする。 ○看護過程展開技術実習前につながる学習となる。 ○課題レポートについてはルーブリックを示して評価する。			評価方法 筆記試験 レポート
使用するテキスト ①系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術 I 医学書院 ②小田正枝 編 ロイ適応看護理論の理解と実践 医学書院 ③松木光子 監訳 ザ・ロイ適応看護モデル 医学書院 ④リンダ J. カルペニート著 看護診断ハンドブック第11版 医学書院 ⑤高木永子 監修 看護過程に沿った対症看護 第5版 学研 ⑥系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔10〕 運動器 医学書院 参考文献 ①看護生理学 メヂカルフレンド社 ②症状別看護ケア関連図中央法規 ③NANDA-I-NIC-NOC の基本を理解する 医学書院 ④系統看護学講座 専門分野 I 看護学概論 医学書院			